

白河関の森公園 実施計画

概要版

2024年3月

白河市
産業部観光課



「地域のプラットフォームとなる公園づくりを目指して」



近年、SDGsのまちづくりが国内外で本格化してきており、そのためのプラットフォームの構築が求められている。SDGsは国家的な政策目標でもあるとともに、真の地域の豊かさを実現するための重要な鍵となるものである。

東北は美しい自然と豊かな文化に育まれた豊穡の大地を有し、これからの日本の未来を決定する重要な資源として注目されている。また、2022年には、甲子園における優勝旗が東北にもたされ、「白河の関越え」が全国的なニュースとなり、福島県白河市は、全国的に再認識されることとなった。

本調査においては、こうした、全国的にも認識が高まる「白河関跡」の存在を踏まえながら、白河市の重要な地域資源である白河関の森公園の将来像を設定し、その実施計画の検討を行ってきた。

白河関の森公園は、東北の玄関口であり、自然、歴史、文化等の多面的なポテンシャルを有しており、これらを磨き、可視化していくことが重要である。

これからの持続可能な社会を形成する基本は、地域主体によるまちづくりのプロセスの構築にあり、本計画においては、実施計画策定委員会や地域住民の意向を十分に踏まえながら、基本計画においてゾーニングされた各ゾーンに対する施設計画やコンテンツ等の具体化を検討した。今後は、こうした検討を踏まえ、地域の誇りとなる持続可能なcommonsとして、自然と歴史が融合する21世紀型の公園の創造を目指していくことが求められる。

白河関の森公園 実施計画策定委員会 委員長 風見 正三

「白河関の森公園実施計画策定委員会 委員リスト」*敬称略

委員長	風見 正三	宮城大学理事・副学長・教授
委員	穂積 広	旗宿自治会 会長
	小坂井孝博	古関行政センター 所長
	伊東 和雄	白河観光物産協会 主査
	小松 裕子	元教育委員
	渡辺 紀子	歴史的風致維持向上計画委員
	緑川 喜文	地域住民より選出
	原 あけ美	地域住民より選出
	藤田 敦子	地域住民より選出
	佐々木 進	地域住民より選出



白河市役所 観光課

本庁舎2階 〒961-8602 福島県白河市八幡小路7-1

電話番号：0248-22-1111 ファックス番号：0248-24-1844

「自然」と「人」と「文化」が融合する 持続可能なコミュニティパーク

市民と行政と地域の協働
ソフトとハードの連動



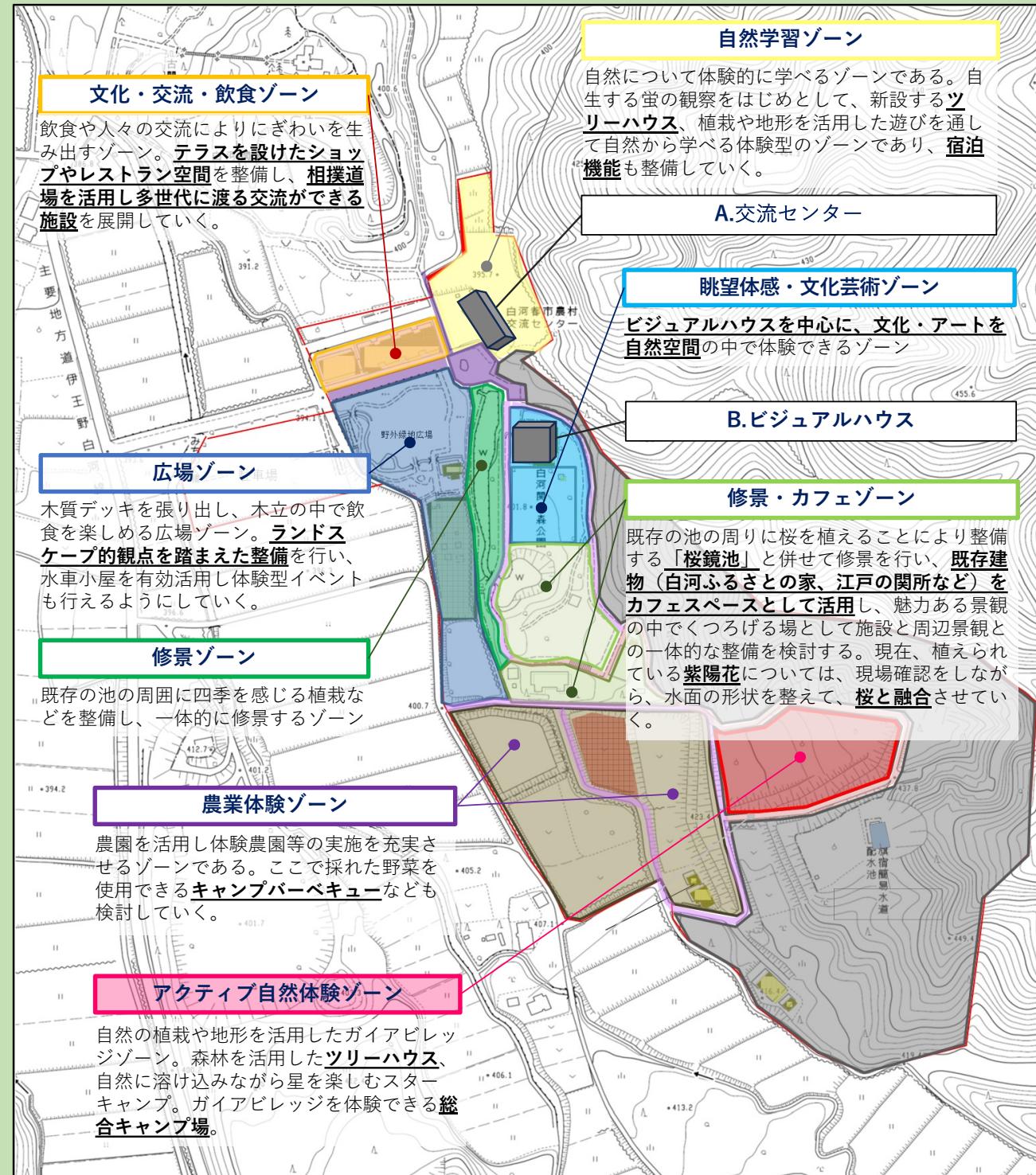
関の森公園の強みの一つである自然資源や農園を生かした自然体験や農業体験、里山体験、地産地消体験などのアクティビティができるアグリパークとしての計画を示しています。また、実施に当たっては、市民や地域の参画を得ながら、ソフト事業とハード整備を融合・連動させることで、関の森公園を守り、賑わいを創出する持続可能なコミュニティの創造も目指していきます。

白河関の森公園 実施計画案

	Step1	Step2	Step3	Step4	Step5	Step6
ソフト事業		自然体験プロジェクト 農業体験プロジェクト	里山体験プロジェクト			
			エコリーダー（環境まちづくりリーダー）育成プロジェクト			
ハード事業	基礎調査 企画立案	計画・設計	A. 交流センター施工 ①	A. 交流センター施工 ②		
	基礎調査 企画立案	計画・設計	B. ビジュアルハウス 施工			
		計画・設計	ツリーハウス・キャンプ場 施工 (自然学習ゾーン・アクティブ自然体験ゾーン)			
		計画・設計	農業体験ゾーン 施工 (バーベキュー場)			
		計画・設計	文化・交流・飲食ゾーン 施工 (レストラン・ショップ・相撲道場)			
		計画・設計	眺望体感・文化芸術ゾーン 施工			
	計画・設計	広場ゾーン・修景ゾーン 施工				
		計画・設計	修景・カフェゾーン 施工 (桜鏡池・ふるさとの家・江戸の関所)			

白河関の森公園 実施計画 ゾーニング

白河関の森公園においては、「アクティブ自然体験ゾーン」「農業体験ゾーン」「文化・交流・飲食ゾーン」「眺望体感・文化芸術ゾーン」「広場ゾーン」「修景ゾーン」「修景・カフェゾーン」「自然学習ゾーン」をそれぞれ設置し、ゾーンごとの特性を引き出すとともに、ランドスケープデザインの一体性やサイン計画の統一化などを踏まえた整備を検討しています。



白河関の森公園が有する地形や空間、豊かな自然資源の特性を最大限生かした体験や学びができるように8つのゾーンを設定し、文化・交流・飲食、自然学習、農業体験、アクティブな自然体験などをテーマとし、その魅力を作り込んでいきます。

ハード整備の実施計画

ハード整備については、ソフト的な使い方、運用方法等を視野に入れ、市民や民間事業者の意見やアイデアを対話により抽出しながら、公園整備の新たな事業方式の採用も含め、企画段階からの産官学民の連携を視野に入れ、検討を進めていきます。

既存施設の計画

交流センター

エリア：自然学習ゾーン

公園に訪れた方々が、白河関の森公園が備える雄大な自然環境に親しみながら、交流・滞在できるランドスケープ的な視点も加味した施設として改修を行います。また、宿泊施設やワーケーション施設としても利用できるように整備を検討していきます。



ビジュアルハウス

エリア：眺望体感・文化芸術ゾーン

白河関の森公園における、文化・アートを自然空間の中で体験できる「眺望体感・文化芸術ゾーン」の拠点施設となるよう、映像&展示&ギャラリースペースに使用可能な設えとなるよう改修を検討していきます。また、周囲の自然環境との調和を図るランドスケープについても検討を行うとともに、情報環境の整備についても検討していきます。



レストラン・ショップ

エリア：文化・交流・飲食ゾーン

既存建築物の空間性を尊重し、室内空間の“くつろぎ”や“リラックス”のイメージを明かりにより演出し、室内空間のイメージの一新を図るとともに、レストラン部分には、外部に連続したテラスを設置し、内外の連続性を意識しながら、おしゃれをして食事に来るような内装工事を施していきます。また、地元農家や菓子店、酒蔵、レストラン等との連携を図り、新たな商品開発を行なっていきます。



相撲道場

エリア：文化・交流・飲食ゾーン

スポーツの体験や魅力を重視した上で、相撲道場の価値を改めて公園の中に位置づけます。具体的には、相撲を取るという行為「アクティビティ」が視覚的に公園利用者に伝わる新たな施設のあり方を費用対効果を踏まえ検討していきます。また、インクルーシブに配慮した整備を行い、誰もがアクセスしやすい施設にしていきます。



新規施設の計画

ツリーハウスの設置

エリア：アクティブ自然体験ゾーン

関の森公園特有の地形や豊かな自然資源の一部である樹木を生かし、自然との融合の象徴としてのツリーハウス製作を進めます。製作にあたっては、ソフト事業であるツリーハウススクールプロジェクトを通じて、市民と共に製作を進行していきます。



アースハウスの設置（風見正三委員長提案）

エリア：アクティブ自然体験ゾーン

花の里構想により様々な木々が溢れるようになった花見山の景観を活かしながら、自然の植栽や高低差のある関の森公園の地形を利用して、傾斜に横穴を掘りながら母なる大地と一体となる空間、アースハウスの製作を検討していきます。



総合キャンプ場の造成

エリア：アクティブ自然体験ゾーン

培われた農作物の食イベント等の連動性を考慮しながらバーベキュー場や、夜には360°の星空を楽しむスターキャンプ体験、グランピングもできる総合キャンプ場のレイアウト・施工を進めます。



ソフト事業の実施計画

持続可能な公園整備に向けて、地域資源を磨きながらハードと連携したソフト事業の実践を推進していきます。また、実践の過程においては、市民・行政・民間の三者が一体となることが重要になると共に、地域の課題をビジネスで解決するコミュニティビジネスの観点を取り入れながら持続可能な状態を創り出していきます。

農業体験プロジェクト

地元農家の指導のもとで地の野菜づくり（種まきから収穫）を行なっていきます。収穫した野菜については、イベント等でバーベキュー、料理など、食することへ繋げることで食育も行っています。



自然体験プロジェクト

白河関の森公園特有の自然環境や歴史・文化を体験するプログラムを季節ごとに企画提供していきます。プログラムの提供に当たっては、地元のNPO法人や専門家と連携して先導することで、地域との共創環境を創出していきます。



里山体験プロジェクト

里山の風景を守る植林体験や里山の整備体験、また、竹細工体験や地域で採れる食材での郷土料理を食す会などの各種イベントを通じて、里山の保全意識を醸成していきます。また、実施の過程では、地元の専門家との連携を通じて、環境人材の育成も行います。



エコリーダー（環境まちづくりリーダー）育成プロジェクト

野外学習やワークショップを通じて、地域社会・自然環境・経済をつなぐ持続可能な地域を創造するエコリーダーの育成講座を開催していきます。



ツリーハウススクールプロジェクト

自然と調和する関の森公園リニューアル構想のシンボルとしてのツリーハウス製作を推進していきます。ハード整備を兼ねると共に、市民との共創を通じて「地域から愛される公園づくり」の基礎を築いていきます。



サステナブルな公園づくりの推進

地域で採れた素材の積極的な活用（風見正三委員長提案）

地球温暖化対策としてのカーボンニュートラル実現に向けた取り組みの一環として、地域で採れた素材を建築資材として活用していく取り組みは不可欠です。実証実験的に新たな公園の施設の維持管理・改修を、公園内で育てた素材により行うという取り組みを進めていきます。例えば、農業体験ゾーンのため池で育てたススキやヨシを植え、これらを活用し、「ふるさとの家」の茅葺を、体験イベントの企画・開催により更新していく手法も検討の余地があります。

公園全景イメージ



公園全景イメージ



関の森公園にツリーハウスを作ろう ツリーハウスを学ぶワークショップ報告

市民と共に創り上げる公園を目指して

2024年3月9日に「関の森公園にツリーハウスを作ろう ツリーハウスを学ぶワークショップ」を開催しました。関の森公園のリニューアルのスタートアップとして、シンボルとなるツリーハウスを市民の方々と共創する第一歩を踏み出しました。当日は、関の森公園の木々の枝や木の実など自然物を自由に収集し、ノコギリ、枝切りバサミ、グルーガン、綿の紐などの工具や材料を自由に使用し、自分だけのツリーハウスを制作した。そして最後に、作成したツリーハウスを皆様にシェアする発表の場が設けられました。

